



元気な声で鬼は外、福は内

2/2 明科北保育園

明科北保育園では2月2日、一日早い節分の豆まきを行い、「鬼は外、福は内」の元気な声が響き渡りました。

園児たちは、絵の具やダンボールなどで作った鬼のお面をかぶって、遊戯室に集合。園長先生が「いっぱい良いことがあるように、元気よく豆まきをしましょう」と呼び掛けると、大きな声で返事をしていました。節分にちなんだゲームやダンスを終えると、園庭に出て豆まきがスタート。保育士がふんした鬼が登場すると、大きな声で「鬼は外、福は内」と言いながら、力いっぱい豆を投げて、鬼を追い払いました。



次代へ素晴らしい森林環境を

2/1 松本広域森林組合発足記念式典

平成10年から研究がされてきた松本地域の森林組合が合併し、松本市浅間温泉文化センターにて発足記念式典が開かれました。範囲は旧筑北、旧松本、旧筑南、旧あづみ、旧穂高町の各森林組合で、組合員は10,260人、森林面積59,828haと県内屈指の組合誕生となりました。

森林整備の大切さが叫ばれる中、式典は国、県、関係団体から多くの来賓が出席し、実施され、新しい森林組合への期待の大きさを感じました。

福を分け与える伝統行事

1/14 豊科福俵曳き

豊科成相区と新田区に伝わる伝統行事「福俵曳き」が1月14日に行われました。

この日は、両区の若衆約20人ずつが「わっしょい、わっしょい」という掛け声とともに、福俵を引いて区内を練り歩き、前年にお祝い事があった家などに福俵を奉納しました。

若衆は、成相と新田の拝殿や各所で、ぐるぐる回りながら福俵を地面にたたきつける俵回しや横になった人の上に福俵を乗せ、その上に3段の人塔・人間ピラミッドをつくる演技を披露し、祭りを盛り上げ、見物客からは大きな拍手と歓声が起こりました。そして、福俵が奉納される家に到着すると、福を呼び込もうとする近所の人と、簡単には福俵を渡すまいとする若衆の間で、綱の引き合いが繰り広げられ、福俵が納められました。



安曇野市民電子会議室を開設

2/2~4 安曇野ルネサンス

まちづくりワークショップ(情報グループ)に参加した市民が企画したイベント「安曇野ルネサンス」が2月2日から4日まで、穂高総合支所隣の旧保健センターで行われました。

イベント期間中は、市内で活動する市民グループを紹介する展示や安曇野の自然、民話、安曇野ブランドを考える講演や意見交換会などが行われ、多くの人々が訪れました。また、市民と行政、市民同士の交流を活発に行うために、情報グループがこのほど開設した「安曇野市民電子会議室」を体験してもらうため、パソコン6台が設置されました。電子会議室は、市政に関するテーマを設定した「会議室」と、テーマを設定しない「井戸端会議」があり、市民が自由に意見や提案を書き込めるようになっていて、来年1月まで試行されます。電子会議室のアドレスは、<http://azumino-citizen.web9.jp>です。

県下最大の商工会としてスタート

1/29 安曇野市商工会合併契約書調印式

豊科町商工会・穂高町商工会・三郷村商工会・堀金村商工会・明科町商工会は1月29日、安曇野市商工会発足に向けての合併契約書調印式を市内で開きました。

この日は、5商工会長をはじめ、関係者約70人と立会人として平林市長と佐藤惇郎商工会連合会会長が出席しました。式で、市商工会設立委員会の会田二郎委員長は「会員が一致団結し、市商工会と市がともに発展していきたい」と話し、平林市長は「今まで以上に、連携・連帯を深めていきたい」とあいさつしました。新商工会は、4月1日に発足し、法人・個人の会員数は約2,400となり、県内では最大の商工会となります。



安曇野に暮らす外国人が交流

1/7 あづみのハートネットワーク国際交流会

安曇野に暮らす外国人の支援や国際交流などを行う「あづみのハートネットワーク」は1月7日、スケート大会と中野市の平野小学校5年生との国際交流会を行いました。

この日は、安曇野に暮らす外国人など約70人が参加。長野市にあるエムウエーブで、氷の上で苦戦しながらもスケートを楽しんだあと、児童たちとの交流会に参加しました。児童たちが総合学習の時間に学んだ異文化交流についての発表を聞いたり、一緒にもちつきやドッジボールなどを行い、楽しいひとときを過ごし、交流を深めました。